

教員の業績

職名		教授	学位	応用言語学 修士
氏名	カナ	シオタニ ユミコ	役職名	国際交流推進室長
	漢字	塩谷 由美子		
1. プロフィール		四国学院大学英文学士 南カリフォルニア大学応用言語学部修士課程修了		
2. 主な担当科目		日本語、基礎演習、就職特講		
3. 専門分野		日本語教育		
4. 主な研究テーマ		ビジネス日本語教育 外国人留学生のアクティブラーニングによる能動的学習と論理的思考の育成		
5. 主な研究業績	論文	「高度外国人材に求められるオンラインコミュニケーションスキルとは—CEFR2018補遺版に基づくCan-do statementsの開発—」『琉球大学国際教育センター紀要』第5号、2021年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—CEFR2018補遺版におけるmediationの分析を通して—」『琉球大学国際教育センター紀要』第4号、2020年3月（共著）		
		「韓国で活躍する元留学生の高度人材をめぐる現状—メーカーにおける仲介人材に対する実態調査—」『琉球大学国際教育センター紀要』第3号、2019年3月（共著）		
		「日本企業で活躍する高度外国人材をめぐる現状—企業と高度外国人材の認識ギャップを中心に—」『富士論叢』第62巻第1号、東京富士大学学術研究会、2018年12月（共著）		
		「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」『琉球大学国際教育センター紀要』第2号、2018年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築—直観的手法を中心に—」『琉球大学国際教育センター紀要』創刊号、2017年3月（共著）		
		「学部留学生を対象としたことばと文化の教育を考える—能動的学習の促進を目指す「日本事情」科目を通して—」『言語文化教育研究学会第2回研究集会 in 金沢 報告集』言語文化教育研究学会、2015年12月（共著）		
		「大学教育における「日本事情」科目の位置づけに関する一考察：ディベートを用いた論理的思考育成の試み」日本語教育方法研究会誌 22(1)、日本語教育方法研究会、2015年3月（共著）		
		「学部留学生対象の「日本事情」科目に関する一考察—日本文化・社会への能動的な関わりを促進する授業実践に向けて—」『富士論叢』第58巻 第1号、東京富士大学学術研究会、2013年（共著）		
		「能動的学習の促進を目指す外国人留学生の「日本事情」科目—多人数クラスにおけるディベートの導入とその検証—」『富士論叢』第57巻 第1号、東京富士大学学術研究会、2012年		
	「ボランティアが参加する文法・会話練習の教室活動」『津田塾大学 言語文化研究所報』第26号、津田塾大学 言語文化研究所、2011年			
	その他の研究活動	「高度外国人材に求められるオンライン業務スキルに関する実態調査—CEFR2018に基づき開発したCan-do Statementsを用いて—」2021年度日本語教育学会春季大会発表（オンライン）2021年5月（共著）		
		「韓国で活躍する元留学生の高度人材をめぐる現状—メーカーにおける仲介人材に対する実態調査—」沖縄県日本語教育研究会第16回大会研究発表、2019年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとは—タイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第15回大会研究発表、2018年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築 —高度外国人材に対する実態調査「読む」「書く」活動を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第14回大会研究発表、2017年3月（共著）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築 —高度外国人材と企業担当者に対する実態調査を中心に—」インドネシア日本語教育学会、日本語教育国際研究大会、2016年9月（共著）		
		「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築 —直観的手法を中心に—」沖縄県日本語教育研究会第13回大会研究発表、2016年3月（共著）		
「学部留学生を対象としたことばと文化の教育を考える—能動的学習の促進を目指す「日本事情」科目を通して—」『言語文化教育研究学会第2回研究集会、2015年6月（共著）				
6. 所属学会		日本語教育学会 津田塾大学 言語文化研究所 言語学習の個性性とその対応に関する研究会 初年次教育学会		
7. 主な社会活動、資格				